
僕の逝き方

喜久井克将

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の逝き方

【Nコード】

N7816X

【作者名】

喜久井克将

【あらすじ】

とある高校生、葉霧隆輝は、学校に行き、友達と触れ合い、楽しい暮らしを過ごしていた彼を襲う悲しい出来事……。短い彼の人生をつづる一作。

はじめに・・・(前書き)

新人の喜久井克将です。

これは正真正銘初めての投稿になります。

なにぶん文学力がないと思いますがよろしく願います。

はじめに・・・

人間にはそれぞれいろんな逝き方があると思う。ゆっくり時間をかけたり、一瞬だったり、たくさんの人に囲まれながらとか、一人ひっそり気付かれないとか・・・喜び、悲しみ、怒り、そんな感情を抱きながら逝く人もいるだろう。

僕もそのうちの一人、高校生にして一生を終えた人間、はぎりりゅっき葉霧隆輝。

この僕がどのようにして生きてき、どのように死んで逝ったかをこの場を借りて教えていこうと思う。興味のない、または面倒くさいと思う方はどうぞイってください。

はじめに・・・(後書き)

次を書くのに少々期間が空くと思います。すみません。

第一

キーンコーンカーンコーン……高校のSHRショートホームルームの終わりの鐘の音が校内を響かせる。

「終わったー！さあて、今日は何するかな？」

俺、葉霧隆輝はきりりゅうきは高校の2年、自分で言うのはなんだが、いでたちや学力は平均ぐらい、部活は一応科学部（ほぼ幽霊部員状態）に入っていて、クラスでも目立たず友達が少ないほうだと思つ。

「おいリュウ！今日帰り 例 の場所行かないか？」

荷物をバックに入れてる途中背後から話しかけてきたのは数少ない友達の1人柏原空かしわらそらだ。

彼はクラスでも中心的存在で文武両道、ダンス部のエースでもあり、俺とは全く対照的存在だ……一部を除いては。

俺は後ろを振り向きながらバックを肩に担ぎ、

「いいけど……空、部活は？もうすぐ大会なんだろ？」

「今日はオフにしたんだ！たまには友人との友情を育むのもいいだろ」

嘘だ！俺はそう思ったが今日の日にちを見てその疑いはなくなった。

「10月20日か……わかった。じゃあ行くか」

俺は空の誘いに乗り、 例 の場所に向かうため靴を履き替え、正門からダッシュで俺たちがいう 例 の場所にむかった。

目的地に着くまで俺の通う高校を説明しよう。

佐々焼山高校ささやまやま、俺たちの地域では中の上ぐらいの学力のところ毎年そこそこの良い大学へと生徒を輩出させていた。これだと普通の高校じゃんつと思つた人、この高校には唯一と言つていいほど特別のところとこに建っている。学校の裏側は何もない。あるのは穴、下が見えなくなるぐらいのとても大きな穴のある異常のところとこに建つてい

る。穴は半径50メートルはあると思う。普段はその穴の周りには高い柵が張ってあり入れなくなっている。ほかにこれといったことはないのでそろそろ 例 ところに着くだろう。

第一（後書き）

中途半端で終わりますがご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7816x/>

僕の逝き方

2011年10月22日02時16分発行